

令和6年度第3回掛川市多死社会のまちづくりを考える会議 議事概要

日 時	令和6年12月13日(金) 13:15～
会 場	掛川市役所5階 全員協議会室

■出席者(敬称略)

No	所属等	氏名	出席状況
1	静岡大学 グローバル共創科学部 教授	須藤 智	出席
2	社会福祉法人静岡県社会福祉協議会 常務理事	藤原 学	出席
3	桑原淑浩司法書士事務所	桑原 淑浩	欠席
4	ソフトバンク株式会社 (掛川市役所 企画政策部 企画政策課 参事)	尾村 義隆	出席
5	NPO 法人かけがわランド・バンク 理事長	丸山 勲	出席
6	島田掛川信用金庫 島田本部 地方創生室 室長	齊藤 奈津子	出席
7	掛川市農業委員会 委員	鈴木 深雪	出席
8	掛川商工会議所 中小企業相談所 所長	山下 真弘	出席
9	医療法人 綾和会 掛川東病院 院長	宮地 紘樹	出席
10	社会福祉法人 大須賀苑 高齢者福祉事業部 部長	伊藤 文子	出席
11	掛川市社会福祉協議会 地域支援課 生活支援係 係長	堀場 美和子	出席
12	掛川市地区まちづくり協議会連合会会長	鈴木 浩	出席
13	株式会社LPフィナンシャルマネージメント 代表取締役	山崎 直人	出席
14	元掛川市教育委員	永田 孝明	出席
15	一般社団法人 日本承継寄付協会 代表理事	三浦 美樹	出席

発言者	発言内容
1. 開会	
事務局	<p>皆様こんにちは。</p> <p>本日は、ご多用のところ、お集まりいただき誠にありがとうございます。定刻となりましたので、ただ今から、第3回掛川市多死社会のまちづくりを考える会議を開催いたします。</p> <p>本日の予定でございますが、この後、議事に移り、概ね1時間30分を目安として会議を進めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。</p>
2. 市長あいさつ	
市長	<p>少し前に、自分の父から言われたことがあり、多死社会についてするのはわかるが、死期の近い人間からすると想像してしまう部分があるので、そういう言葉を使ってくれないでくれと言われました。</p> <p>実際には寿命も延びており、健康な方も増えていますが、亡くなっている方が増えていくということは、数字で明らかであり、事実でもあるので、我々は対応していかななくてはなりません。</p> <p>本来、使いたい言葉ではありませんが、そういったことに目を背けるわけには行けないという意味で使わせていただいています。もちろん、そう感じる方も多いので、検討しているという伝え方には十分配慮しなければいけないと思っております。</p> <p>しかし、行政としてもあらかじめ想定され、進行中の問題については、しっかりと対応策を練り、引き続き皆さんにご協力を賜りながら進めてまいりたいと思います。</p> <p>本日は、答申に向けたキーワードや関連した資料が入っていますので、着地を見据えながら、それぞれの立場から忌憚のないご意見を賜りたいと思いますので、よろしくお願いいたします。</p>
3. 資料説明	
経営戦略室長	<p>事前に配布をさせていただきました資料1「多死社会のまちづくりの現状および課題、対応策」及び資料2「答申に向けてのキーワード」をご覧ください。</p> <p>資料1については、次の2点について追記及び修正などを行っています。</p> <p>1点目は、いただいたご意見に対する追記、修正です。</p> <p>前回いただいたご意見の対応策と変更された箇所は赤字で記載させていただいております。</p> <p>また、目次をご覧ください。前回の会議でコミュニティにも色々なコミュニティがあるのご意見をいただきましたので、コミュニティについて「組織」「地域の拠点」「福祉」「防災・防犯」「文化の継承」の5つのコミュニティに分類し、タイトルの頭に表記させていただきました。</p> <p>更に、目次の次のページをご覧ください。こちらについても、前回の会議で、4つのカテゴリーと5つの分野のマトリックス表にしてはどうかのご意見をいただきましたので、表を追加させていただきました。</p> <p>なお、2ページ以降の表について、前回まで、「現状と課題」の右側に「対応策(案)」と記載をさせていただいておりましたが、「課題に対する解決策として考えられること」と表記を修正させていただいております。</p> <p>2点目は、優先度の記載です。</p> <p>前回までにいただいたご意見等を基に、各「課題に対する解決策として考えられる</p>

発言者	発言内容
	<p>こと」に対して優先度を記載させていただきました。</p> <p>◎は、来年度または再来年度から実施していく必要があるものについて「最も優先すべき事項」として記載しています。</p> <p>○は、次期総合計画において記載し、計画期間中に実施していく必要があるものについて「優先すべき事項」として記載しています。</p> <p>続いて、資料2の「答申に向けてのキーワード」をご覧ください。</p> <p>こちらについては、掛川市からの諮問に対する答申をいただくにあたり、答申に盛り込むべき内容を、資料1のカテゴリーごとキーワードとして抽出をさせていただいております。</p> <p>なお、資料2に記載のキーワードは、資料1に黄色く着色した箇所から抽出したものととなっております。</p> <p>本日は、初めに追加・修正した点についてご確認いただくとともに、追加・修正した箇所以外に新たに加えるべき課題や視点についてご意見をお願いいたします。</p> <p>その後、資料1に追加した優先度について、優先順位を上げたほうが良いものや優先順位を下げて良いものについて、ご意見を申し上げます。</p> <p>最後に、答申に向けたカテゴリーごとのキーワードについて、追加したほうが良いキーワードがありましたら、ご意見をお願いいたします。</p> <p>本日のご意見を基に、第4回の会議で答申案をご提示させていただきたいと考えております。</p> <p>説明は以上となります。よろしく申し上げます。</p>
4. 議事	
<p>会長</p>	<p>先日、益田市に行ってきて、多死社会に取り組んでいるという話を伺ってきました。現実問題、高齢者の数が減ってきているという状況だそうです。</p> <p>1人1人の方をどうサポートしていくか、中山間地域の中でかなり苦勞してお仕事されている女性の方々や地域の方々にお話を伺っていくことができました。</p> <p>印象的だったことは、地域の方々が総力をあげて積極的に課題に取り組むという姿が見られ、これも地域力なんだと感じられましたが、やはり組織的に限界もあるところも感じており、色々な地域でそれぞれの課題があるんだと感じました。</p> <p>掛川市もこういった場を持ち、地域の方々と行政の方々が対話しながら、地域の課題に取り組んでいただければと思います。</p>
議事1 第2回における意見について	
<p>会長</p>	<p>第2回における意見で追加の課題、修正等のご意見がある方はお願いします。</p>
<p>委員</p>	<p>先日、企業に海外の方を雇い入れるバックアップをしている方と話した際、問題になっていることが住むところでした。</p> <p>どこのカテゴリーが良いかわかりませんが、企業の人材、新しい人材が住むための住居として、空き家を活用できることや、企業と一緒に連携することなどができるのではないかと思います。更に発展して考えると、二拠点暮らしの方が増えているので、移住までいかないですが、短い期間で、暮らすのに空き家を使ってもらおうという、仕事と掛け合わせた取り組みを入れていただければと思います。</p>
<p>事務局</p>	<p>産業のカテゴリーに追加させていただきたいと思います。</p>
<p>会長</p>	<p>一般的な問題として、海外の方がたくさん来られた際に、コミュニティの問題とし</p>

発言者	発言内容
	<p>て、文化的な調整の環境を作っていくところは、お互い重要と思いますので、異文化交流も含めた活動ができるようなきっかけもあってよいと思います。</p> <p>二拠点暮らしについて、前回のご意見で、東京に土地を持っていてこちらによく来られているという方がいらっしゃると伺いました。</p> <p>二拠点で生活をしていると住民票どうするのか、身分証をどうするのかといつも悩みます。そういったところ行政がサポートしていただくと良いと個人的に思っています。</p> <p>人口を増やすことや、そこで生活する方々を増やすかという意味で、二拠点の生活スタイルは、日本としてまだ確立できていないと思うので、先進的に何か取り組むのも面白いと思います。</p>
委員	<p>18 ページの地域コミュニティ分野の文化の継承について、問題になっていることは、掛川市の10月のお祭りは、どこも日程が一緒です。</p> <p>本来であれば実家に子供を連れて帰ってきて、実家のお祭りを楽しめるようにしたいですが、どこも一緒なので帰ってくるのができません。掛川市だけではなく、近隣の袋井、御前崎、小笠の一部なども、10月の第2週に行っている。</p> <p>地域が小さな歴史、文化を伝えていくためにも、これまでの地域だけで云々ではなく、お嫁に行った娘さんが子供を連れて帰ってきて、その子供がそういったことを勉強したり、その逆もある。</p> <p>私も地元では日を変えないかと話していますが、体育の日が非常に厄介で、変えるにはなかなか難しいですが、皆さんも思ってると思います。</p> <p>今後これは区長会にもお願いし、検討してもらおうことですが、お祭りの時に地域間の交流をする方が活性化していくのではないかと思いますので追加させていただきます。</p>
会長	<p>地域ごとに独自に行くと全体としてのスケールメリットが見えず、効果が薄くなってしまうと思いました。</p> <p>どのような仕組みで区長会があるかを伺いましたが、そこできちんと年間スケジュールが調整されることで、お互い手伝うことができるようになったりすると思いますので、協議会のような仕組みがあっても良いと思います。</p>
委員	<p>これは市の問題ではなく、神社の問題で、この会議の内容ではないかもしれませんが、地域交流の点で、市でも応援していただきたいです。</p> <p>例えば掛川でも、北部と南部、掛川の駅周辺で日が違えば、行ったり来たりの交流ができ、その地区の子供たちが勉強もするだろうし、そういった形で今から文化を守っていってもら方がいいのではないかと思います。</p>
会長	<p>こちらの意見は（9）に入れていただければと思います。</p>
委員	<p>自分は東京と掛川で2拠点をしています、住民票が東京にあるので、掛川に税金を収めたいなと思い、掛川に拠点のある会社を立ち上げました。</p> <p>2拠点で来たり、掛川に興味持ってくれた人が仕事をしたいというときに、賃貸のオフィスでできればいいですが、できないときや、まだ月に何万円と払うものというときに、コミュニティオフィスのようなところに若い人たちが来て、起業したとき</p>

発言者	発言内容
	<p>に、小さなオフィスを集めるような場所を空き家などと一緒を試みたり、そこにクリエイティブな人たちが集まるような場所になると、面白いと思います。そうすれば少しでも税金も納めてくれる人が増えるかなと思います。</p> <p>数は多くないかもしれませんが、起業の法人登記する住所を安価でできるような場所が、移住や関係人口を増やす点であってもいいと思います。</p>
会長	<p>いろいろ事情はあると思いますが、生活拠点は1ヶ所ではなく、いくつか生活する拠点があってもいいのではと思います。</p> <p>地域ごとの課題を解決したいというとき、このエリアで登記して会社を作ることによりメリットがあると思います。</p> <p>起業も色々な単位があると思うので、そういった支援するというのはとても重要だと思います。</p> <p>産業のところに、このエリアで起業した人たちに対しての支援も積極的にしてもよいと思います。</p>
委員	<p>今の話は、カテゴリのマトリックスで言うと、対象が個人、カテゴリーが人で、なおかつ分類としては産業にも入ってきて、産業の中でも不動産に入ってくると思います。</p> <p>また、お祭りの話で、大須賀は4月に大人が中心の祭り行い、9月に子供が中心のお祭りを行います。9月は中学生以下が全部取り仕切っています。</p> <p>笛の上手な人は、昔から色々なお祭りに頼まれて回っています。</p> <p>それをもう少し活かしていけば、人の交流が出てくると思うので、そういったことができればよいと思いました。</p>
会長	<p>人が減ってくるので、これまでと同じようにやるということであれば、考えなくてはいけません。島根に伺った際は、どうやって閉じるかということも考えなくてはいけなとおっしゃっていました。閉じ方もみんなで考えると、最適化をどうしていくかは結構難しいと伺ったので、文化の継承について、今後の方針をみんなで考える場があってもいいと思っています。</p>
委員	<p>掛川市に引っ越してきたときに、一番は困ったのはお祭りです。</p> <p>お祭りの参加の仕方がわからないです。こどもの帯の仕方もわからず、足袋の色が決まっていることも知らず、白い足袋を履いていたら駄目と言われ、掛川のお祭りに参加するのが難しいなと感じました。法被も4年に1回のお祭りのときにしか販売しないとされていて、引っ越してきた年はお祭りではなく、法被をどうしようとなりました。移住者の方でお祭り参加したい方もいますが、私と同じような気持ちになる方もいると思うので、参加の仕方を教えてくれる窓口があったらいいと思います。</p>
委員	<p>今は、どこも子供が少なかったり、地域の若い人たちが少ないので、お祭りをできない地区が出てくる。そういった点でも市内間の交流や、市外をまたいで交流するには、日が違うと合流もできる。</p> <p>横須賀をお祭りの話が出ましたが、横須賀は4月がお祭りなので、屋台を引く方も助っ人でくるので、盛り上がっていますが、10月にやっていたらどうなるのかと思うくらいです。</p>

発言者	発言内容
	<p>現在、横須賀のお祭りの青年の人たちは大東や浅羽から来て一緒になってやっています。それは一つの交流であって、その人たちも10月には自分たちのお祭りに出ています。</p> <p>私たちが子供のときは地域に子供がたくさんいて、何も心配なかったのですが、これからの時代はこうしていくべきではないかと思います。</p>
委員	<p>移住の方がお祭りに参加しにくいということで、私は地元に参加していて、家族も地区の役員をしたり、友達も役員をしています。私の地区はマンションに引っ越してきた方いるので、地区でいらなくなった法被を集めて引っ越してきた方に貸し出しをしたり、うちの地区だけではなく大々的に事前に余っていないか呼び掛けている地区も結構あり、移住者を迎えるという意識は少し出てきていると思います。</p> <p>お祭りだけでなく、引っ越してきた方に楽しく暮らしてもらおうとしているところもあると感じます。</p>
会長	<p>コミュニティ作りの中で、お祭りが一つ重要なイベントだと思いました。</p> <p>イベントとしてのお祭りを、どのようにデザインし、これから残していくかという話と思います。</p> <p>形のある文化財は比較的色々なところで残していくということがあるかもしれませんが、お祭りなどは無形的な文化財に属していくのかなと思います。</p> <p>宗教的などが絡んでくるところもあるので、行政として手を出しにくいところもあると思いますが、地域の賑やかさも含めて、媒介物として重要なキーになるものだと思います。お祭りがこれほど話題になるということは掛川の一つの重要なものだと思いますので、その視点を考えていただいてもいいと思います。</p>
委員	<p>キーワードです。</p>
会長	<p>ここまで話題になるということは、地域の中での重要な一つの無形文化財なのかなと思いますので、それを使った何かがあっても面白いかもしれないと思います。</p> <p>お祭りについてキーワードとして検討していただければと思います。</p>
委員	<p>1年でお祭りのときに一番、子供から大人、高齢者まで一緒になって話をしたりする。そういう点で地域コミュニティは、お祭りを通じて非常に盛り上げており、必要なことだと思います。</p>
委員	<p>介護の関係ですが、施設を利用してもらう方がいいのか、家庭で介護をしていく方がいいのか、方向性がわかりません。</p> <p>自分が家庭で3人介護した経験もあり、その経験から年寄りには家で介護した方が良かったとは思いますが、施設の方がとても充実したサービスをしていただけていると思います。</p> <p>以前、介護保険が導入される時、社会福祉協議会とJAで訪問ヘルパーの研修をしていました。参加された方がたくさんいて、自分も参加しましたが、とても役に立ったという経験があり、今はやられていないと感じたので、もし家庭で介護する方がよいと思う方が介護の仕方を勉強できるようにしていただけるとありがたいと思います。</p> <p>また、行方不明者があった場合、ふくしあへ連絡してくれればよいと聞いていま</p>

発言者	発言内容
	<p>す。以前、私がそういう方を保護した際、警察の方から施設の方から出したのではないかと犯人扱いされたり、どうしてそこにいたんだということを言われてとてもつらい思いをしました。ふくしあで対応してくれると聞いて、とても嬉しいですが、いろいろなことがあった場合、ふくしあが土日お休みにで連絡できないので、不安です。</p> <p>介護ステーションや訪問看護もそうですが、土日の対応があつて、自宅でも言われたことがあったので、休日の対応もこれから考えていく必要があると感じています。</p>
委員	<p>今、介護の関係のワンストップサービス窓口を作るとい話があります。</p> <p>福井県が進んでおり、先日、県の職員が視察に行ったそうなので、来年県からどこへ委託になるわからないですが、そういう話が出ています。</p> <p>ホームヘルパーの話については、ヘルパー協に聞いてみようと思います。</p>
委員	<p>在宅介護と施設介護のどちらが幸せかというのは、そのご家庭の選択でいいと思います。今は、昔のように施設に入れることへの偏見はなく、施設に入れることが悪いことではなく、それぞれの症状に合わせて良いと思います。</p> <p>在宅介護について、昔の2級ヘルパーという制度は、現在、初任者研修という形で残っています。当初は何もなく、民間で資格取得の研修もなかった時代に、県から委託を受けて社会福祉協議会が行っていましたが、現在は民間で介護の初任者の資格取得できるようになったので、社会福祉協議会が行わなくてもよいという時代になっていると思います。</p> <p>在宅介護の方たちで、本当に素晴らしい介護をされている方がたくさんいらっしゃいます。今、相談相手としては介護保険の範囲の中で、ケアマネージャーへの相談がありますが、専門職への相談以外にも、在宅介護者同士でお話をしたり、それぞれ支えている立場だからこそ言える、ここだけの話や、具体的にすぐつらかったエピソード、こうやってやったらうまくいった、というようなことを共有する場として、「在宅介護者の会」や認知症の方の介護者を支える「笑顔の集い」があります。</p> <p>昔、立ち上がったものが今も脈々とふくしあの包括の方などの協力も得ながら続いていますので、活用やPRしていただければいいなと思います。</p> <p>その点については、資料の中の認知症の方や介護をする方たちを支援していくというところに盛り込まれていると思います。</p>
会長	<p>多様な介護の仕方というのがあり、それをきちんと支えていけるような仕組みが必要というところが重要だと伺っていました。</p> <p>最近、在宅のヘルパーさんは人数減ってきて大変だというお話も伺いましたので、そこも含めて多様な介護の形をどう支えていくか。</p> <p>自宅で介護したい方もヘルパーの資格を取ったり、勉強することで、ご家族も介護をすることができるようになるだろうし、そういう選択だと思います。</p> <p>先ほど言ったとおり、学生が在宅介護をされてる長寿の会に伺って、話を聞いてきたことありますが、やはりそういった話をするのがとても重要で、そういったことを含めて、支援できるような仕組みが必要と思いました。</p>
委員	<p>在宅がいいというご家族の考えと、施設に預けてお互いに負担ない方が幸せにできるという方もいたりします。</p>

発言者	発言内容
	<p>ふくしあの日お休みについては、ふくしあは行政の窓口ではありますが、実働はふくしあに所属する包括支援センターや社協になっており、一応転送電話になっていたり、夜間でも電話が繋がるようになってます。担当のケアマネージャーさんも大体事務所から携帯に行くので、土日は窓口はお休みですが、どこにも連絡が繋がらないということはあまりないと思います。</p>
<p>会長</p>	<p>追加、修正については以上とさせていただきます、2番目の議事に移ります。</p> <p>資料1の一番右側の列に、優先度として◎と○がついています。◎が最も優先すべき、○が優先すべき、○がないところは使わないのではなく、あくまでも優先度として事務局で順番をつけています。</p> <p>優先度を上げた方がいいか、下げた方がいいかというところの議論をカテゴリーごと進めていきたいと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>優先度をつけることは大変難しいことだと思います。</p> <p>施策を立案するときは、まずどういう社会を実現したいのかという基本認識があり、次に課題認識で、どんな課題があるのか、どういう形にしたいのか、何が課題なのかと、それを集めているのがこの会議と自分は認識しました。</p> <p>現場の方々が、どういう課題をお持ちなのか。ほっておくところになってしまうということを今、意見交換してると思ってます。</p> <p>その次に、定量的、定性的な分析や経緯の確認、他の自治体の比較などをした上で、どのようにどの順番で行っていくのか、そういった資料がないと、優先度はつけられないものと思います。</p> <p>ただ、優先度も困難度と効果を座標軸に取って、どこからやるのか、理想の社会はこうだけど、行政としてここという協議が必要です。</p> <p>それが時間的当面はこれをやらなくてはいけないという意味での優先度なのか、もっと根本的なものに迫る必要があるという意味での優先度なのか、自分はわからなかったです。</p> <p>事務局の説明では、この2年間にすべきことを◎にしましたっていうことなので、それ以外のもははどうするのか。</p> <p>解決策として考えられることにも、困難度の高いものもあれば、そうではないものもあるので、例えば、星一つは必ずやり、星三つはチャレンジというように、濃淡をつけるのもあると思いました。</p> <p>当面策なのか根本策なのか、あるいはチャレンジングなものなのか、そうではないものなのか、といったところを考える必要があります。</p> <p>人材も限られているので、その中でどこが共通理解として市民と成り立つのかということを書いていくのかと思いました。</p>
<p>会長</p>	<p>この優先度は、行政で付けていただいている、今回、皆様で優先度の確認をお願いします。そこで、実際に考えたとき、できるかどうかわからないけれども、チャレンジしてもらいたいということもあると思います。そういった点も含めてコメントいただけることも重要と思ってます。</p> <p>掛川市でまた直されると思うので、優先度をつけられなかったですが、チャレンジ</p>

発言者	発言内容
	<p>すべきところに関して、ご考慮いただくようなつけ方をご検討いただくのも面白いと思います。</p> <p>個人的にはチャレンジして、うまくできなかったことも、それはそれで積み上げてきたものがあり、次のターンでいい方向に行くと思いますので、そういった精神でやっていくのも面白いと伺っていました。</p>
<p>議事2 優先度について カテゴリー1「人」</p>	
委員	<p>今後2年の間にやるという意味合いでは◎でいいと思います。</p> <p>ただ空き家の除却や利活用の推進は、本来このためにやる話なので、見取り図の中で今どの位置にいるのかというのを示す意味で◎と○と思っています。</p>
会長	<p>順番としてはこの◎をまず行った上で、次に○という段取りでしょうか。</p>
事務局	<p>先ほども説明させていただきましたが、これは全てのことをできるっていうことではないので、今回の多死社会の会議の意味合いとしては、早急に行っていくべきものと総合計画、個別計画も含めて、反映していきます。</p> <p>事務局として優先順位の案を示させていただきましたが、皆様のご意見をいただいて優先順位や先ほどの話を加味した形に直させていただきます。</p>
委員	<p>空き家調査は行政がやるということですか。それとも民間に委ねるということですか。</p>
委員	<p>空き家調査は市の予算で、民間のコンサルあるいは調査ができる事業者へ委託を考えております。</p>
会長	<p>ここにあるものをどうやるかというところに関しては、一旦置いておき、大きな話としてこの課題の解決策に関して、掛川市の市民と行政で一緒に取り組んでいくべきことの優先度の議論をお願いします。</p> <p>カテゴリー1で◎がついているところで、7ページ目の認知症に対する理解不足に関して啓蒙活動と社会参加の場を作ることについては2年間で取り組めると思います。8ページ目の南部の医療機関の不足と、9ページ目の移動困難の方々が増えており、交通に関するネットワークの構築の必要性について◎がついていますが、総括してご意見ををお願いします。</p> <p>何もついてないところも優先度をつける提案もあると思います。</p>
委員	<p>9ページの移動困難者の増加について、最近車を運転していて、高齢者の方が運転してるかなと思うことが多いです。</p> <p>子供が事故に巻き込まれたらどうしようと思うこともあります。</p> <p>移動困難者の対策が必要だと思いますが、買い物に車がないと困ると思います。自分の実家もそうですが、母親にネットショッピングを使うようにすすめています。</p> <p>共同で車を利用できる対策も必要ですが、デジタル化で買い物ができるという対策も今後に繋がるのではないかと思います。</p>
会長	<p>買い物困難者の対策も、車だけでなく包括してやるというスタンスだと思います。ご意見として文章に入れておいていただければと思います。</p>

発言者	発言内容
カテゴリー2 「コミュニティ」	
会長	12 ページの自治区の統合に向けた地区への支援、16 ページのスマホ配送業者との見守りは通信講座数一覧表にして、紹介のみが望ましい、17 ページ空き家の適正管理に◎がついておりますが、16 ページの対策はどういう意味でしょうか。
委員	見守りネットワークには、基本的にみんな、個人の方とご家庭同士、地域の方でやる見守りがありますが、一番見守りができるものは、スマホを使ってご家庭の中で見たり、何かあった場合に警備会社が駆けつけてくれるものがあります。 他には、新聞配達やヤクルトもあり、毎日見守りができるのはこういった方ですが、ネットワークの回線の利用料まではみれない中で、市民の方にこういったものがありますと紹介はしていけると思っており、入れさせていただきました。
会長	地域の見守り活動が不足していることに対してどう対処するかについて、色々なサービスがあるので、一覧表で紹介し、見守り力を増強するというをまずやるという話ですね。
委員	17 ページの空き家の適正管理について「掛川市空家等対策計画」の基本方針に基づいて促すことが、この1、2年の間にやれることとして◎だと思いますが、根本的な解決策はまだここに記載されていないということでしょうか。 掛川市の計画はこうなっているので、皆さんこうしてくださいというアナウンス止まりということですか。
委員	空き家の対策計画では、基本的に第一番にやることとして、啓発活動を挙げさせていただいておりますので、何しろ空き家の所有者自体に意識を持ってもらって、自分事として捉えて問題解決に取り組んでもらうというのが第1優先かというふうに認識しておりますので、最終的に危険空き家除却とか、対応策っていうのが出てくると思うんですが、まずは啓発に力を入れていきたいというような意味合いで書かれています。
委員	その上の欄の「状態の良い空き家を、民間企業の力を借りて活用させていくことが重要」と書かれているところが、政策として、例えば根本的に解決に繋がるものの一つというイメージですか。
委員	そのようなイメージです。
会長	まずは、適正管理と流通させる段階があると思っています。 今回、適正管理というところに関しては、策定された基本方針をきちんと周知して、進めていく。 同時に流通などをさせるために、○の優先度のところにも取り組んでいくという段取りと思いました。
カテゴリー3 「企業・労働」	
会長	21 ページの働き手・担い手の人手不足、21 ページの複合経営の推進、22 ページの施設園芸の支援、24 ページの民間事業用地の仲介、25 ページの技術継承支援、27 ページの救急救命士の継続的な確保・育成、28 ページのケアマネジャーの不足に◎がついております。

発言者	発言内容
	<p>ケアマネジャーの先ほど不足問題に関して色々取り組まなくてはいけないという話でしたので◎でよいかと思えます。</p> <p>救急出動件数の増もこれから予算が必要なので、しっかりやりたいことや、お茶も前々回にご意見いただいて、茶もみをどうにかしなくてはいけないので、◎がついていると思えます。</p> <p>継承問題は積極的に取り組まれるというイメージです。</p>
委員	<p>20 ページの「居住の支援や企業と提携して奨学金を出す」とあります。</p> <p>会社で聞きますが、学生が学校に行くためにお金がないので、奨学金を出して帰ってきてうち会社に入り、何年か働いて、お金を返してくださいという、看護師でそういった話を聞きます。</p> <p>市としても、学校に行きたいけどお金がない人たちに奨学金を出して、掛川市に帰ってくれば、免除や減免し、将来的に返してくださいという奨学金を作れば、仕事としてUターンで帰ってきて、掛川市で何かしてみようという学生が増えるのではないかと思います。</p> <p>掛川に来る人たちに対してお金を出すのではなく、ここから生まれ育った人たちが、学校で勉強ができて、色々育んだ人材が掛川に戻ってくるというような仕組みができると、ただUターンしてくださいと言うだけでなく、働き手、担い手が違う形で地元に戻りたい、繋がりたいという人たちが増えていくのではないかと思います。</p>
会長	<p>大学で勤めていると、やはり学生たちは最近お金の問題で、どの世代も苦労されると伺っています。</p> <p>奨学金はすごく魅力的な仕組みと思えます。財源の問題もありますが、アイディアは重要なことだと思えます。</p> <p>ここは、優先度が○になってます。</p> <p>今回多死社会ということで、高齢者向けの話が多く書いてありますが、若い人が入ってくることによって多死社会の問題も解決しやすくなるだろうということから、若い人たちが掛川市に来てもらえるところに優先度を高めてもいいかなと思えました。</p>
委員	<p>外から入ってくる方を拒絶するのではなく、地元の子たちが地元に戻ってきやすいものがあると良いです。磐田や袋井は生活支援に自分たちのところでとれたお米や野菜を学生に送っているという話を聞くので、掛川市でも外に出ていった人たちが、やっぱり掛川市に繋がりを持って、掛川市に帰ってきて、ここで働きたい、もしくはこの県西部や県内で何かしら静岡県のために働きたいというように、若いうちから繋がりを作ってあげることがいいと感じました。</p>
委員	<p>補足で、ここはぜひ◎にしていきたい。</p> <p>高齢者の数はやがては減っていきますが、高齢化率はまだしばらく上がってきます。</p> <p>それを改善するためには生産年齢人口を拡大して、その人たちがまた次の世代を産んでくれるという循環を持たせない限り、将来はないと思えますので、今すぐにでも取り組むべき課題です。</p>

発言者	発言内容
	<p>高齢者に対する対策はもちろんですが、やはり将来的にはここに過重な投資をしていくべきと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>私が日々行っている仕事は、個人の方の現状を確認して、この方10年20年30年40年後はキャッシュ的にどんな感じになってるか、問題点を見つけたら、それをどうやって対策し、問題をクリアできるのかということをしてしています。</p> <p>まさに多死社会の話と同じことだと思います。</p> <p>多死社会と書いてあるので、どうしても高齢者や空き家、介護に目が行きがちです。</p> <p>当然、大切ですが、なるべく手前のところで手を打つと、全体が解決していく。</p> <p>一緒に仕事をしている納税課でも同じ話をしますが、滞納者のサポート確かに大切なんです、やれることは限られています。できればもっと前のところでサポートをさせてもらえれば、そもそも滞納がなくなる。</p> <p>本題の話は、前回も今日も話がありましたが、若者が入ってこないとういにもならないです。掛川市の中で老老介護をする話になってしまうので、若者をどうしていくのか。</p> <p>学生はお金がないので家賃が安くしたりすると魅力的だと思いますが、その人はいつまで居てくれるかわからないです。</p> <p>なので、色々なことをトータルで動いていかないと、多死社会はうまくいかないなと思います。</p> <p>若者が入ってくる政策も大切で、次のステップは、根を張ってもらいたいので、家を建てる時に、空き家も含めて、どのように市としてサポートしながら買いやすい借りやすい形を取れるのか。</p> <p>その次のステップとしては、子供が生まれたときに子供の費用がかかるので、あんまり産めない。最近では、子供を作らない人が増えてます。作らないことが駄目ではなく、作りたいと思ってるのにお金が苦しいということもあると思うので、子供を安心して産み、育てていける環境をどうやって作っていくのか。</p> <p>結果として市の財政的にもよいし、若い人たちが増えるので空き家問題や高齢者の問題も解決していくと思います。</p> <p>まず、ゴールを市としてどうするかを決めて、そこに向けて段階ごとにすべきことをトータルで考えていく形にしないといけないと思います。どうしたらクリアできるか考えるのが会議だと思います。</p>
<p>会長</p>	<p>目標が必要というところはそのとおりだと思います。</p> <p>今回この資料の作り方としては、そういう構造になってないので、そこは事務局で考えていただくということで、今回お伝えしたこととさせていただきたいと思いません。</p> <p>今回、雇用・就労支援は重要なポイントで、シニアの高齢者層の対策だけではなく、若手、子供たちのところも包括してきちんと支援していく視点が重要だと思います。</p> <p>その中の一つとして、労働者人口の若手の学生たちも含めた、子供たちに対する支</p>

発言者	発言内容
	<p>援について、優先度が○になっていますが、◎にしてもいい、今の話を膨らめていただきたいと思います。</p> <p>先ほどの車の話なども含めて、シニアの方にとってハッピーな環境作りは、子供たちにとって悪いことではないでしょうし、この会議やってることは色々な層に波及することだと感じております。</p>
カテゴリー4「公共」	
会長	<p>30 ページの所有者不明等への対応、32 ページの犯罪等の増加、34 ページの孤独死等身寄りのない方が亡くなった時の対応、冠婚葬祭ではない葬祭業者との調整、35 ページの医療、介護サービス医療介護サービスの不足、36 ページの介護施設の人材不足、40 ページの公共交通の維持に◎がついています。</p> <p>◎、○がついてないから重要ではないということではなくて、まず2年間でということにつけられてると思います。</p> <p>高齢者の方々だけではなく、若い方たちも含めてそこに対策することで、多死社会に対しての波及効果があるだろうというところに関しても、優先度を調整されたらいいというご提案があったというような総括でいいと思っています。</p>
委員	<p>若い方々のUターンの話がありました。</p> <p>最後のページにある遺贈寄付について、若い人たちがこういうことをしていくにあたって、掛川市としては物的支援をしていきたいということで、遺贈寄付にご協力いただける方がいるのであれば、市の予算ではなく、色々な方々のご協力で、次の若い人たちを作っていくような枠組みを作れば、◎でもいいと思います。</p> <p>お金などの使い道に困っている人たちのものを、若い人たちに使ってあげる流れを市で作ってあげて、市がそれをバックアップすれば、民間のどこかわからない人ではなく、市がこういうことやってならいいねというふうになれば、皆さんがやってる遺贈寄付がすごく活用できるのではないかと思います。</p>
会長	<p>寄付などを責任ある人が寄付を募って、基金化し、それを分配していく仕組みを地方公共団体でどこまでされているかは存じ上げませんが、アイデアとしてとても面白いと思います。</p>
答申に向けてのキーワードについて	
会長	<p>答申に向けたキーワードについてということで、まとめたものが、資料2になっています。各カテゴリーのキーワードについて、答申に向けたご検討をお願いします。</p> <p>カテゴリーの公共の6番目に多様なパートナー支援があり、すごく重要だと思っておりますが、多様なパートナーには色々な定義があると思います。</p> <p>LGBTQも含めて、同性婚という意味でのパートナーなど、色々な言葉使いがあるので、この多様なパートナーというのがどういうことなのかを加筆した方がわかりやすいと思います。</p> <p>非常に包括的なパートナーを支援する意味であればこれでいいのかもしれませんが、言葉として色々な意味を持つてしまうので整理されるのがいいと思います。</p>
委員	<p>同じくこの多様なパートナー支援について、資料1の中に無い言葉だったので、意</p>

発言者	発言内容
	<p>味するところが何で、どこから出てきたものかを教えていただきたい。</p> <p>学生と高齢者のシェアハウスは、まだ研究が進んでいなかったり、事例がなかなかでてなかったりしていますが、言及した方がいいねというお話があったり、本当に大切な人は親族だけではなく、友達同士で支え合ったり、色々な世代同士で支え合うというところがあるからかなと思いました。</p> <p>人は、居場所と行き場所と一緒に生きる人がいないと孤立・孤独になっていくので、そういう意味で、このパートナー支援は本当に大事だと思います。</p> <p>もう一点、資料から出ているキーワードなので、全て賛同できると思いました。</p> <p>ただ、最初の市長の挨拶の中で、お父様がおっしゃった言葉が自分も同じことを思っていて、多死社会という言葉のイメージの根底にあるものは、誰もがどんな世代の人もいつ死を迎えるかわかりません。誰もがよく生きて、生きれるように、生ききった後、亡くなった後の尊厳についても、会議の中の議論にあったと思います。</p> <p>この会議の参加した者として、権利擁護や人の尊厳、誰もが本当に生きれるとか、どの世代のためにこの事業、この議論があるという根底の部分、答申書の最初に入れてほしいとすごく思いました。</p> <p>当たり前と思うかもしれませんが、当たり前でないことにすることはすごく大事なことだと思うので、根底にあるものを言葉として意図して使っていないと当たり前だと思って騙される怖さを感じるので、根底が記載されていることで、そういう思いを持って多死社会というところに掛川市が望んだんだということが伝わると思っています。</p>
市長	<p>おっしゃったとおりで、多死社会は亡くなる方が多いという物理的な現象に着目しがちですが、実際に考えないといけないのは、これだけ多くの方が亡くなる時代にあって、どうやって豊かな、尊厳のある生き方を全うするのかということだと思います。</p> <p>掛川市は、これまでも生涯学習都市宣言を日本で初めてしたまちで、豊かに生きようということを追求してきた場所です。</p> <p>そうするために色々なことを考えていかななくてははいけません。</p> <p>遺贈寄付も、亡くなる方が多いからお金をいただきたいというよりも、亡くなる方にとって地域貢献をしたい、生まれ育ったまちや学校に恩返しをしたいという思いが誰しもあると思います。</p> <p>それをどういう形でしたらいいのかわからない方が多いです。</p> <p>それを提供することで、遺言書を残してよかったとか、亡くなった後でも地域の方に恩返しができるというように、尊厳を持ってかつその方の気持ちを生かしながら、最後まで生きていただくことができるということも含めて考えていかなければいけないことです。</p> <p>多死社会でどう生きるかというところを、何かしらの形で最初の方に入れるようにしたいと思います。</p> <p>それから、キーワードの公共の⑥の「多様なパートナー支援」の意味合いは、パートナー自体が多様化しているということと、支援も多様化しなければならないと思</p>

発言者	発言内容
	<p>ってます。</p> <p>パートナーというのももちろん異性、同性の話もありますし、これだけ一人暮らしの方が多くなってくると、結婚パートナーというより、シェアメイトという共同生活ということもあります。一人暮らししてる人の中にも臨んで一人暮らしになってる方と、望んでないけどなってしまった方もいます。</p> <p>特に後者の方が、これからの生き方をするとき、誰かとともに支え合って生きていきたいという、それは結婚相手の場合もあるし、ルームメイトのような話もありますが、例えばそういったものを探したいと思ったときに、我々はそれをどう支援していけるのかという意味もあります。</p>
委員	<p>高齢者認知症の人や介護で動けない人たちが、先日の臨時情報が出たときに、すごく不安が走りました。何か備えてくださいと言ったけど、どうしていいかわからない人がたくさんいました。南海トラフ地震の非常に危ない地域にいますが、キーワードに発生時の対応や防災の言葉が入ってないので、市として取り組んでいる、向き合ってるというのが入ってもいいと思います。</p>
委員	<p>今の意見に賛成です。</p> <p>コミュニティのところで、伝統文化の継承と綺麗な言葉にしてしまうと、熱量が伝わらないので、お祭りという単語が入ると市民にとってわかりやすい感じがあるかと思います。伝統文化では空々しいような気がするので、「お祭りなど」と入れた方が、血が通うと思います。</p>
会長	<p>地域の伝統文化（祭り）というニュアンスで書くといいと思います。</p> <p>防災のことも、公共のカテゴリーで、全ての世代が安全安心で生活できる防災まちづくりのように、総括して入れていただきたいと思います。</p>
委員	<p>私達は高齢者関わっていて、最後の何日間や、亡くなる場所を見ているので、多死として見ると、亡くなった後よりも亡くなる前を気にしてしまいます。</p> <p>一番最初が亡くなられた後の空き家が出てきて、亡くなる前や亡くなっていく方のことが多い公共が最後ので、空き家が最初よりも後の方が良いと思います。</p>
会長	<p>自分も最初にこのお話を伺った時、多死社会というキーワードが強い言葉だと感じましたが、社会全般としてはこの言葉が最近使われるようになっていて、そこをきちんと問題意識として取り組まれるというのは、意味があると思っています。</p> <p>ただ、市民の方々に伝える言葉として、どういう言葉が適切なのかは、行政の方で考えられた方がいいと思いますし、人口減少社会の問題なんだと個人的に思います。</p>
委員	<p>色々な課題を聞いてる中で、やはり中長期的にはコンパクトシティを目指すしかないのではないかと感じています。</p> <p>その背景として、財政が強靱な自治体ではないです。</p> <p>そんな中、掛川市は面積が広く、これから高齢化で医療や介護が必要で、交通の課題もあり、はたまた南海トラフの経済損失の可能性もあり、行政としてはもう支えきれなくなってくるのではないかといいところなんです。</p> <p>ですので、ぐっと集まっていくべきではないかと思っています。</p> <p>では、元々住んでた人をどうするのというところはありますが、それはセカンドハ</p>

発言者	発言内容
	<p>ウスとして残してもらった方がいいと思います。例えば農業の拠点にしたり、お祭りやイベントもそこを拠点に盛り上げて、伝統文化は絶対絶やしてはいけないと思います。あとは例えば大型の工場の誘致に成功したとすれば、そこを拠点に一つのまちを作ればいいです。この問題を解決するにはそういった観点も必要だと思います。</p> <p>そのコンセプトがあった上で、広域連合が成り立つんじゃないかなというふうに考えてます。</p>
会長	<p>コンパクトシティは、うまくいってるところ、いかないところが現実あると伺っています。</p> <p>島根に行った際、中山間地域だと住んでるところから介護のところへ行くのに、片道1時間、往復2時間かかる。どうしてそういう方たちは降りてこないんだろう。行政からは降りてくださいと言ったり、そういう人たちを集めて移り住んでくださいとは言えませんということで、簡単にコンパクトシティは難しいとおっしゃったことを聞いていて、それをうまくどう作るかっていうところが多分ポイントだと思います。</p> <p>そういう方たちの生活動線があり、スーパーや病院をうまく効率的に生活できるようにしてあげるかとか、都市計画の中でやり方があると思うので、他の市町村等々の事例を見ながら考えていくのも将来必要と思いますが、コンパクトシティ化を考えるかどうかはかなり大きな問題だと思います。</p>
委員	<p>多死社会という言葉のインパクトが強すぎて、皆さん最初違和感を感じる。</p> <p>例えば最初に「長寿」とつけて、「長寿・多死社会人」となるとマイルドになって良いのではないのでしょうか。</p>
委員	<p>副題ぐらいになると長寿の社会を向かえるにあたって、多死社会になった場合のまちづくりをどうしますかとすると良いのではないのでしょうか。</p>
委員	<p>自分は死なないとか、自分は認知症にならないって思っている方が非常に多いのではないかと思います。遺贈の件も遺言書を書くとなると、認知症になると書けません。空き家も空き家になってからでは遅く、空き家になる前に対策を取っておくことが重要です。</p> <p>あるまちづくりの地域の話聞いたときに、空き家になったところのマッピングもしてるが、あと何年で空き家になるかのマッピングをしてるところもあり、そこに対して事前にできることをしているというところもありました。</p> <p>遺言書というと死ぬ前に書くものとか、死を決意した人が書くものという意味で取られがですが、英語で遺言は「ウィル」と言い、意思や、自分の意思を残す、それを繋げるとか、自分がいなくなった後にどう貢献できるかを書くものとして世界では使われてる中で、意識を変えていけるといいなと考えています。私達は助成金を出すことしかできませんが、地域の金融機関の皆様や、土業の皆様が相談役を担っていただけたらと思いますので、皆さんと連携できればいいと思っています。</p> <p>あと、若者の話も出ていたと思いますが、どの地域も活性化するとき若い人たちが色々なことをされてるという事例がたくさんあると思いますので、そういった方もここにいて意見が言えたら、面白いのではないかと思います。</p>

発言者	発言内容
会長	<p>高校生や大学生ぐらいの年齢の方も、こういう議論の場に出てきて、意見でなくても重要なことと思います。</p> <p>それでは議事を終了させていただき、事務局からお願いいたします。</p>
7. その他	
事務局	<p>ありがとうございました。</p> <p>また委員の皆様も大変熱心なご議論いただき、本当にありがとうございました。</p> <p>ここで、お礼も兼ねて、市長よりご挨拶をさせていただきます。</p>
市長	<p>皆さんありがとうございました。</p> <p>だんだんと議論が深くなり、本当に充実した内容になりそうで楽しみであります。</p> <p>多死社会の言葉の扱いですが、これから検討させていただきますが、皆さんの意見を聞いた限りでは、カテゴリーの並べ方も、公共を最初にした方が良いということも一理あります。</p> <p>なので、前文を作って、そこに我々も委員の皆さんも、多死という言葉は別に使いたくて使ってるわけではなく、今を生きる皆様方の豊かな生き方っていうことを考えつつこの問題に取り組んできましたというような内容を入れたらどうかなっていうふうに思いましたので、その辺りも相談しながら、仕上げていきたいなと思います。</p> <p>残り1回、引き続きよろしくをお願いします。</p>
事務局	<p>第4回の会議については、2月13日 木曜日 10時00分から、場所は全員協議会室を予定しております。</p> <p>詳細につきましては、後日改めてご案内申し上げます。</p>
8. 閉会	
事務局	(省略)